

魔法のふでばこプロジェクトに参加して
～ 成果報告会ポスター用資料 ～



安来市立 赤江小学校
井上 賞子

I P a dの活用状況

○学びきる手立てとしての活用(事例①)

- ・「これがあればできる」という見通しをもってくり返す中で、学習の定着を図る。
- ・手立てを持って「学びきる」体験を重ねることで、意欲や自信を支える。

○学びやすさを支える手立てとしての活用(事例②)

- ・取り組み易く、続けやすい手立てを持つことで、くり返しを成立しやすくする。
- ・多感覚を活用することで、情報を捉えやすく、定着につなげやすくする。

○学び方の特性の仮説へつなげる活用(事例③)

- ・多様なアプローチのできるappを使い、「なぜ取り組みやすいか」「なぜ難しいか」を考える中で、学び方の特性の仮説を立て、指導につなげていく。

学びきる手立てとしての活用(事例①)

Bさんの日常の漢字使用の状況（3年の終わり）

- ・見て書くことはできるが、文章を書く際に思い出して書くということには困難が大きかった。
- ・毎日書くような字でも、なかなか定着しなかった。
（毎日同じ字を直していた）
- ・連絡帳では、教科の名前は予定表を見ながら書くので漢字で書けるようになってきている。
- ・「今日」は漢字で書くようになってきた。
- ・「ここは漢字だよ」だけでは直せず、メモや横に赤ペンでお手本を書くのと直してこれた。
- ・「直す」ことが嫌いで、「ここを直そう」と言われると涙が出たりぐずり始めることもよくあった。

【Bさんの目標】

使う頻度の高い漢字の定着が進む

app 大辞林・筆順辞典・7notes for iPadを活用



手書き入力を利用して、

- ・読み方がわからない時
- ・漢字がわからない時

自分で調べて解決につなげる。

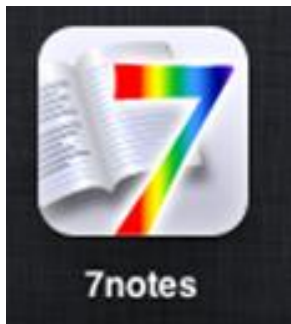
メイン
で使用



大きな表示を利用して、

- ・視覚的に確認する。
- ・なぞって、線の位置関係や数を体感して確認する。

補助
で使用



手書き入力を利用して、

- ・漢字がわからない時

自分で調べて解決につなげる。

③自分で調べて、書き直す

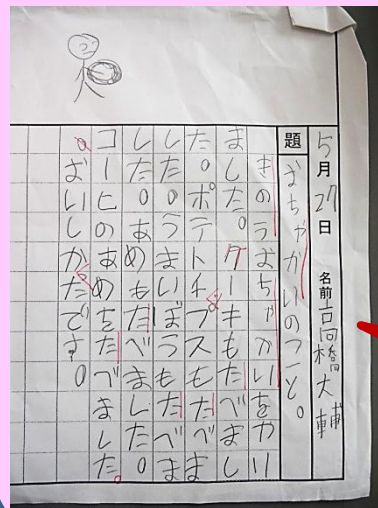


題					昨日
コ	し	し	た	ま	ず
ー	た	た	。の	し	ち
ヒ	。の	。の	ポ	た	ヤ
の	あ	う	テ	。	会
あ	め	ま	ト	ク	の
め	も	い	キ	ー	茶
ち	食	ぼ	プ	キ	会
食	べ	う	ス	も	
べ	ま	も	も	食	
ま	し	食	食	べ	を
し	た	べ	べ	ま	か
た	。	ま	ま	し	い



ま
の
う
ぶ
ち
か
い
を

①提出された日記



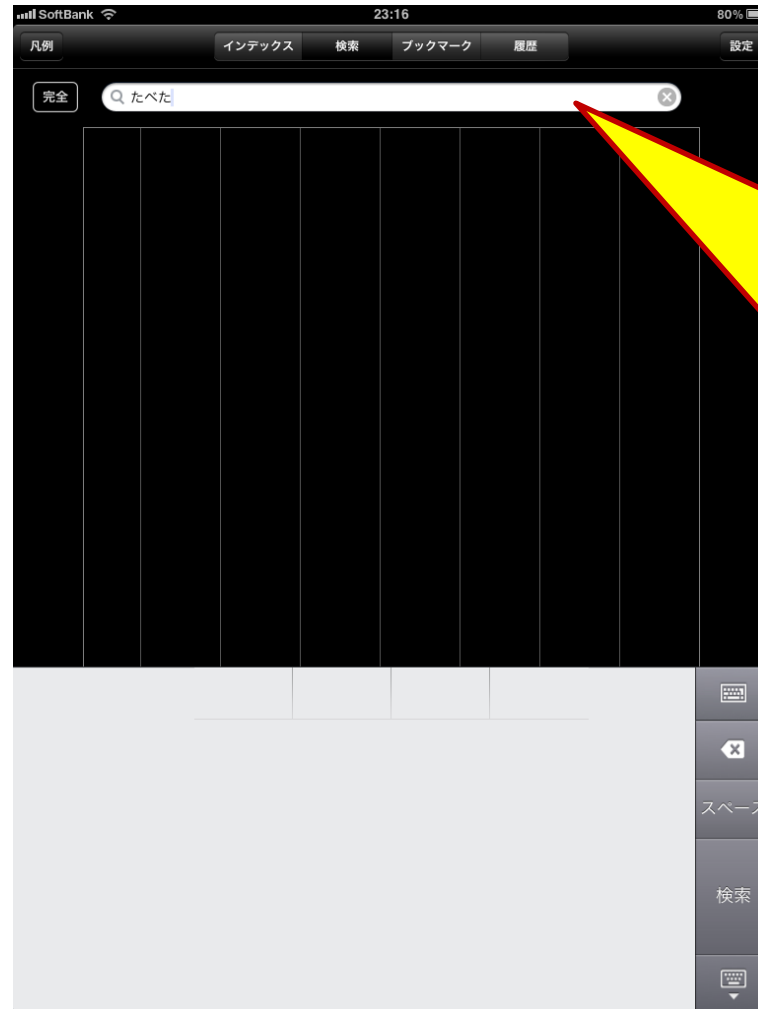
題					昨日
し	し	た	ま		ず
た	た	。の	し		ち
。	。	ポ	た		ヤ
あ	う	テ	。		会
あ	め	ま	ト	ク	の
め	も	い	キ	ー	茶
ち	食	ぼ	プ	キ	会
た	べ	う	ス	も	
べ	ま	も	も	食	
ま	し	食	食	べ	を
し	た	べ	べ	ま	か
た	。	ま	ま	し	い



②漢字に直す部分に赤線を引き、iPadと一緒に渡す

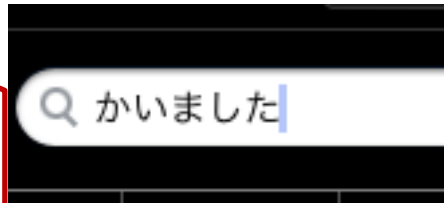
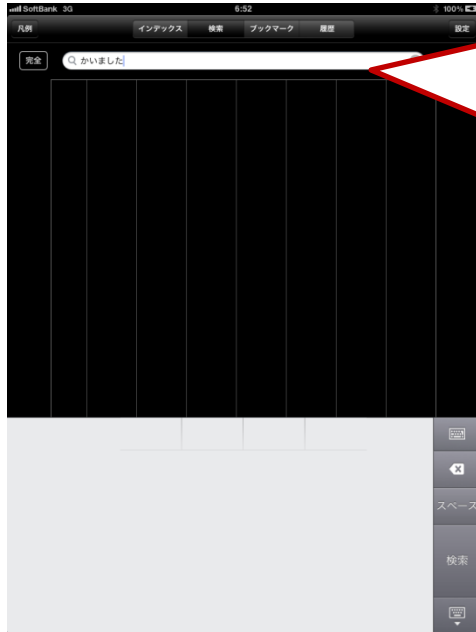
困ったこと

出てこない
よ～



「食べた」で調べたくても、候補が出てこない。「食べる」なら出てくる。

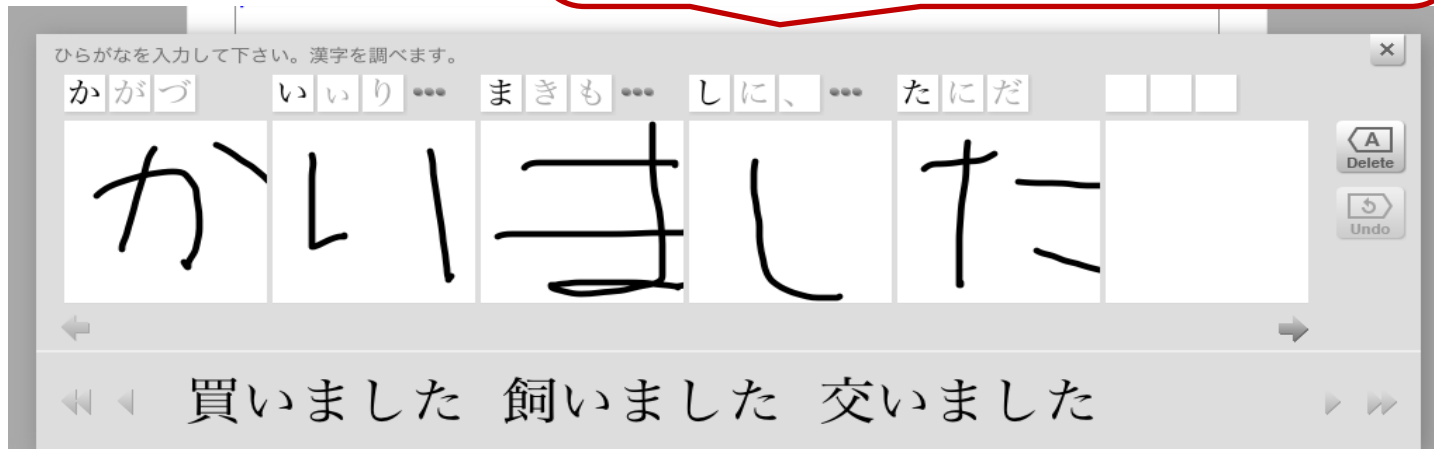
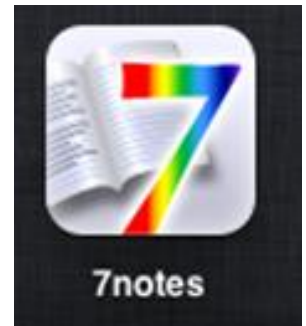
そんな時は7notes

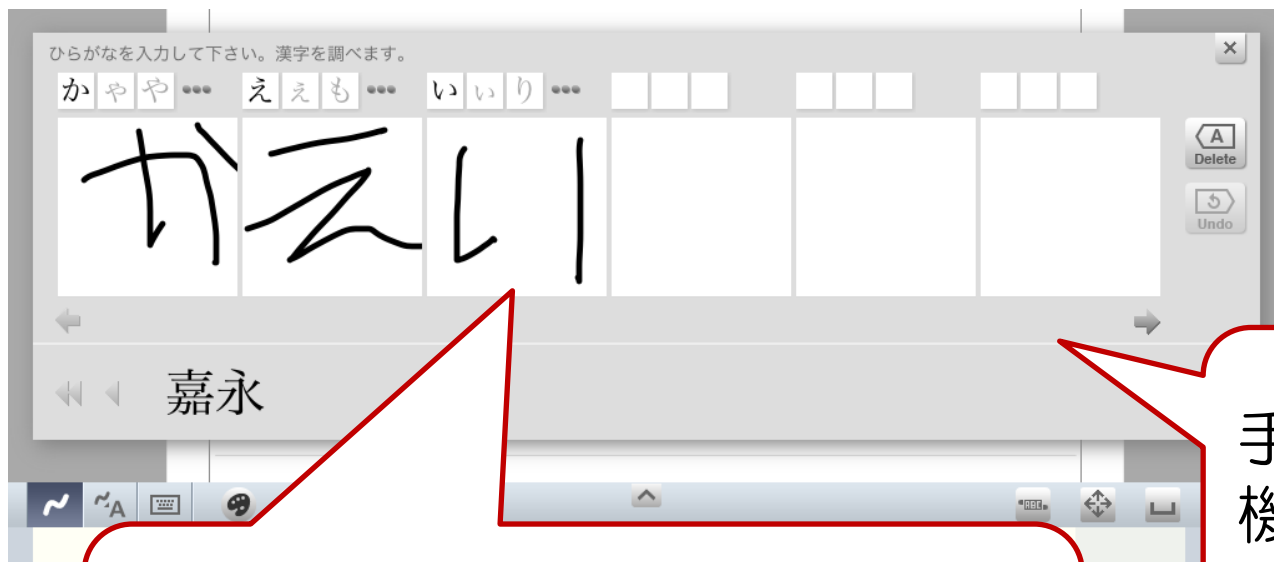


大辞林で「かいました」を調べようとすると、表示されない。

「かい」にすると、何十も候補が出てくる。

7notesの手書きで辞書機能を使うと、文章に使っている表現のままで調べられる。





手書き入力で辞書機能を利用。

「り」が形が整わず「い」と認識されているが、候補に「り」が出ている。

候補から「り」を選択

「帰り」が出た。



帰り 返り 反り 還り 孵り 帰り道

困ったこと

出てこない
よ～



書き順が違って
いて、候補が出
てこない。

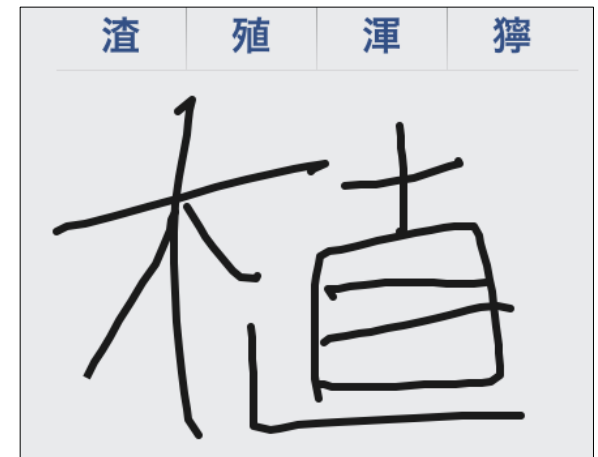
そんな時は筆順辞典



①漢字の書き順が違っていて、大辞林で読み方を調べられない。

②手書きで入力

③表示に合わせて
なぞり書きして確認



④筆順辞典の音訓表示で調べる。

（わからない時は、正しい書き順で、大辞林で調べなおす）

書き順シートも活用

- ① ひらがなの書き順が違っていて、大辞林で漢字を調べられない。
- ② 書き順シートで確認
- ③ 入力しなおす



定着に向けて

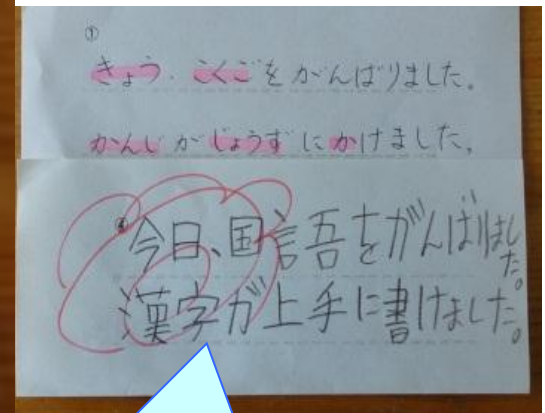
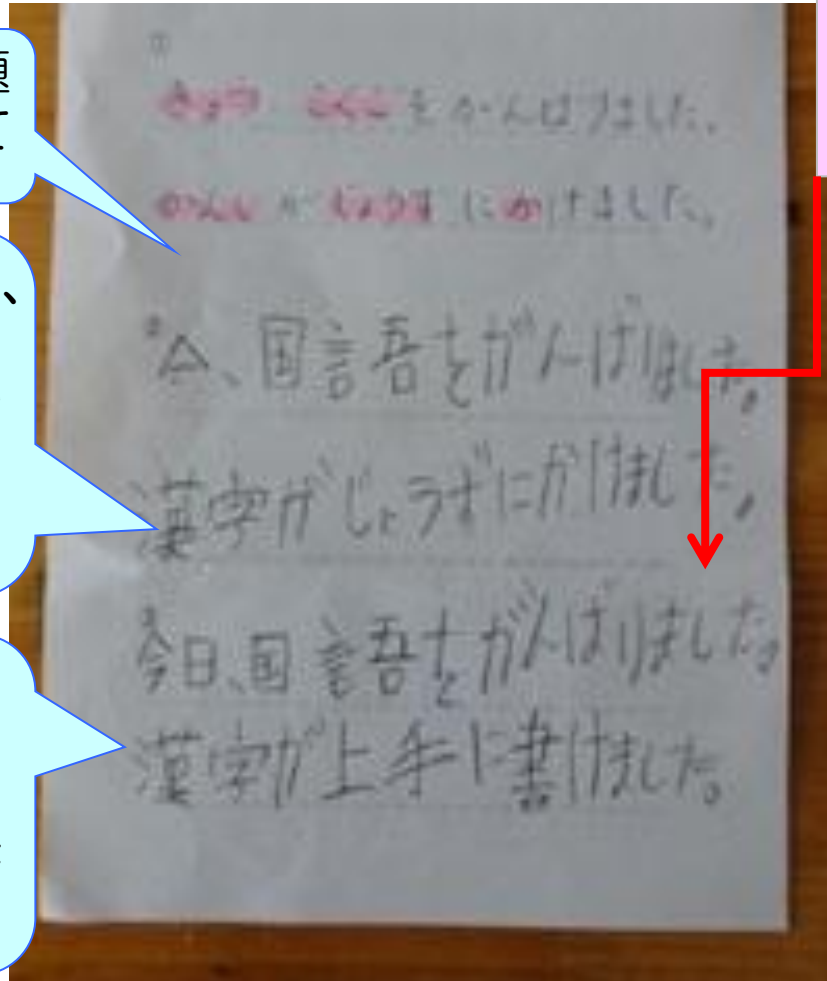
3回短文プリント

① ひらがなで課題になる文を書いておく

② 課題を見ながら、まずは思い出して書いてみる。わからないところはひらがなのままでもいい

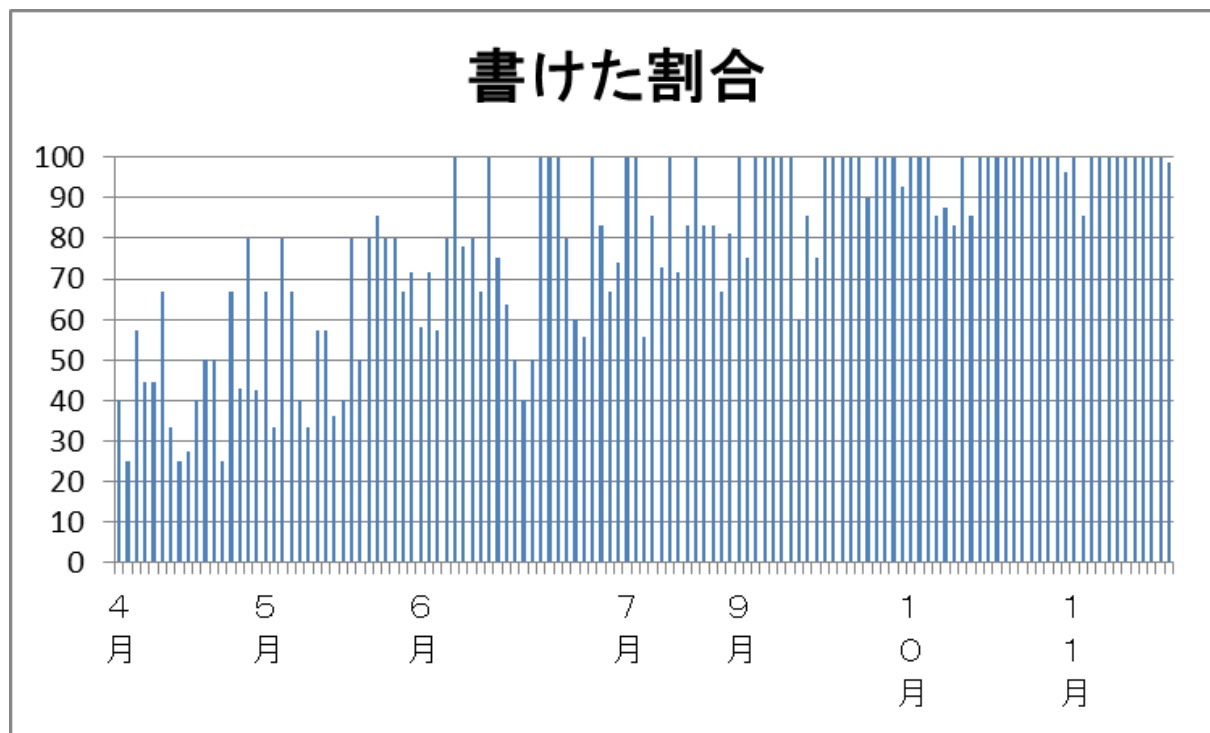
③ わからなかったところ、間違ったところを大辞林で調べて、正しく書く

ここを折り返して、②③が見えないようにして思い出して書く



②③で書いた正しい漢字を思い出しながら書く。わからなくなったら、③を見返してもいい。

振り返り日記の状況

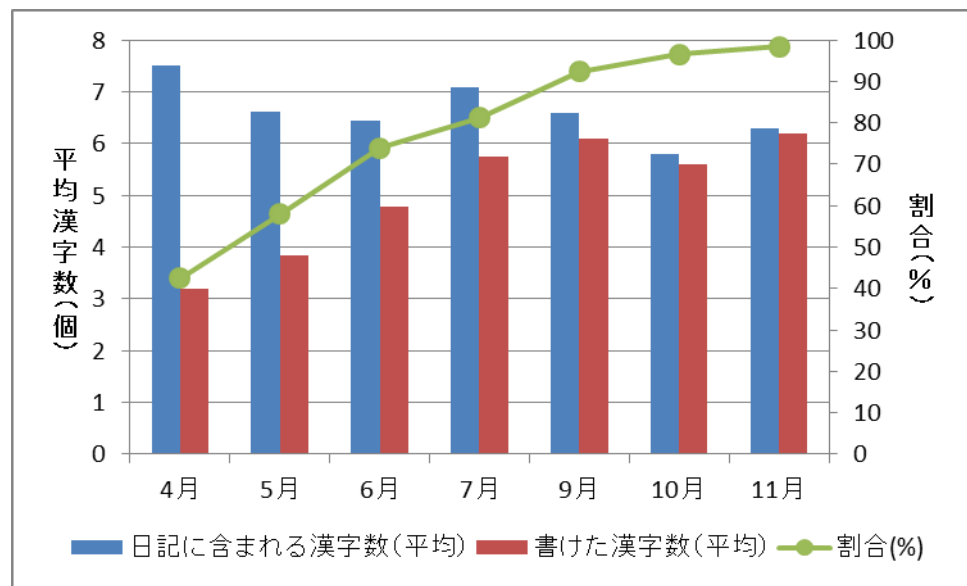


漢字が書けた割合の推移。

6月に初めて、100%漢字が使えた。

9月以降は、ほぼ毎日、習った漢字を使って書けている。

振り返り日記の状況

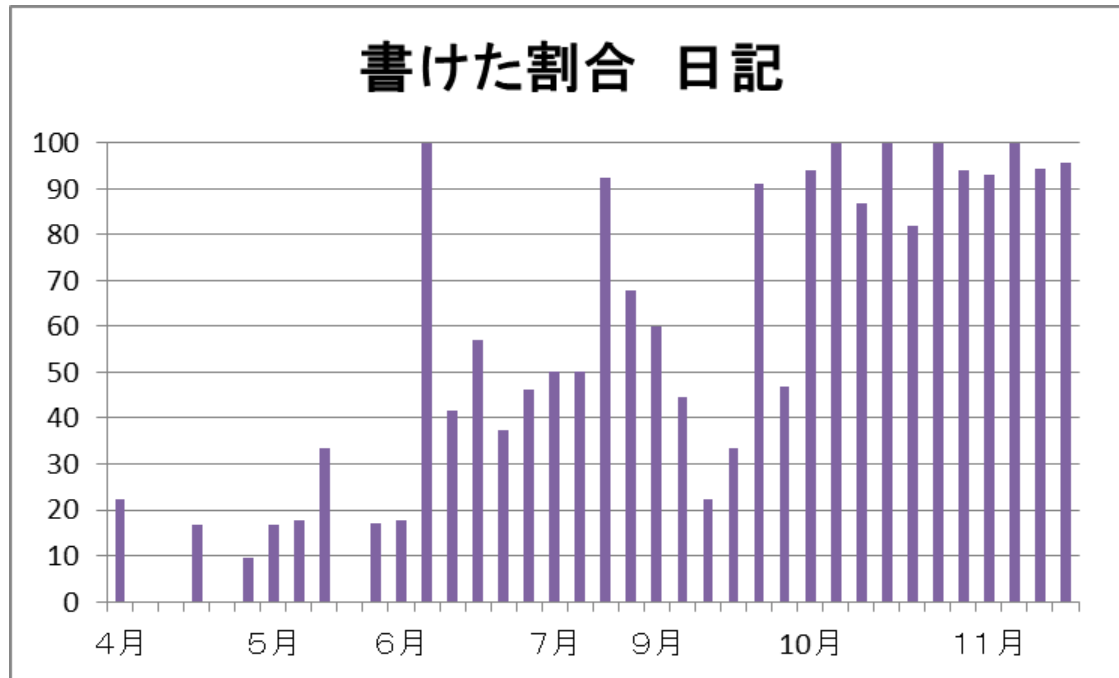


4月、5月にかけた漢字のほとんどは「今日」と「算数」「国語」などの教科名。「今日、国語をがんばりました。」というような書き出しが多く、そこだけ漢字で書けていたが、毎日のように出てきている「楽しかった」「行きました」等はずっと書けなかった。

漢字にするべき文字数は、6～7文字でほぼ横ばい。
書けた漢字の割合は、上がってきている。

	漢字の平均文字数	書けた数の平均	割合
4月	7.5	3.1875	42.5
5月	6.61	3.83	57.94251
6月	6.45	4.77	73.95349
7月	7.08	5.75	81.21469
9月	6.6	6.1	92.42424
10月	5.8	5.6	96.55172
11月	6.3	6.2	98.4127

週末日記の状況



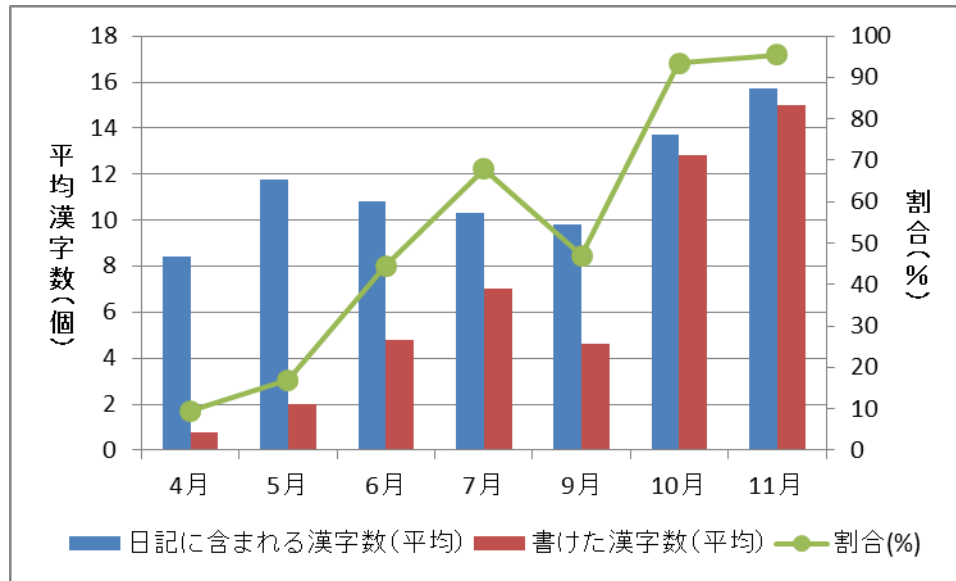
6月の2週目、初めて全ての漢字をつかえていた。
「すごいね」とほめると「だって思い出せたもん」と答えた。

漢字が書けた割合の推移。

4月に3回、5月に1回、漢字が0ということがあった。

毎週似た内容を書いてきており、毎週のように同じ漢字を直すことを3年生のころから続けていた。

週末日記の状況



振り返り日記では、4月でもほぼ書けている「今日」も週末日記では書けないことが多かった。直す時「『今日』は書けるでしょう？」と言うと、「あっそうだった」と思い出して直せた。本人に聞くと「なんでかわかんけど家では思い出せんかった」と話していた。

書けた漢字の割合は、上がってきている。

10月、11月と、1回の日記に10個以上の漢字をほぼ毎回使えるようになってきた。

	漢字の平均文字数	書けた数の平均	割合
4月	8.4	0.8	9.52381
5月	11.75	2	17.02128
6月	10.8	4.8	44.44444
7月	10.3	7	67.96117
9月	9.8	4.6	46.93878
10月	13.7	12.8	93.43066
11月	15.7	15	95.5414

良かったこと

- i P a dを導入するまでも、もちろん漢字の直しはしていたが、自力で調べたり思い出したりすることが難しかった。
- 赤ペンで直したり、メモに書いたものを渡したりして直していたが、毎日のように同じ字を直していても、なかなか定着しなかった。
- i P a dを使って「自分でできる」という自信がついてきたように思う。そういう発言も増えている。
- 直すことを以前のように嫌がらず、進んで調べたり直したりするようになってきている。
- 「書ける場面が増えてきた」「よく漢字を使うようになってきた」と感じていたが、こうして数字に表わしてみて、改めて実感した。

学びやすさを支える手立てとしての活用(事例②)

Dさんの読み書きの状況

【読み】

- ・読むことはできるが、あまり意欲的ではない。くり返すことを嫌う。
- ・語彙は豊富、大人びた言葉もよく知っている。

【書き】

- ・ひらがなが全部書ける状態で入学してきたが、お手本を見ながらでも形が取れなかったり、線のつながりや構成をとられなかったり、書き順が違っていたりする。
- ・マスの中に文字を収めることが難しい。左利き。

【Dさんの目標】

ひらがな文字の書字を習得すること

app おえかキロクを活用



書いたものを動画として記録再生できる。
もともとはお絵描きのapp。



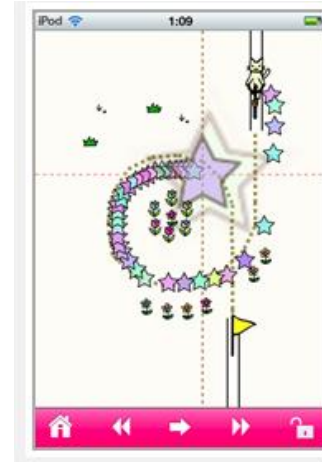
Dさんの文字の書き方を動画で記録



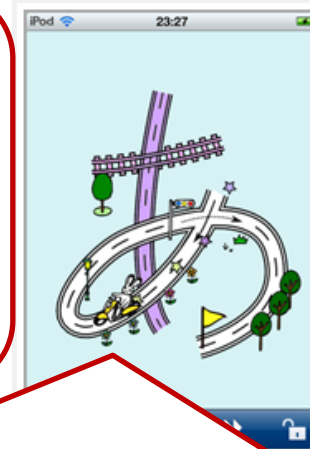
app ナゾルート・モジルートを活用



文字を構成する要素になる、色々な線をなぞり書きする課題として活用。



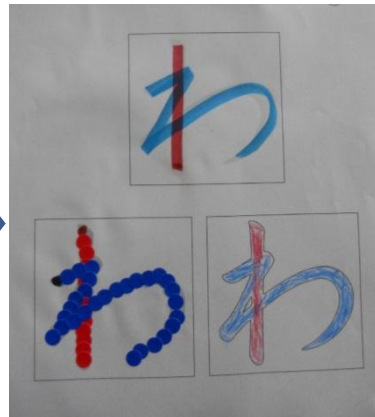
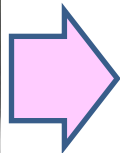
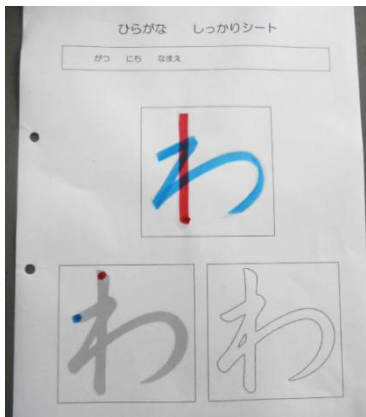
多感覚を利用して、書き順・線の方向性・重なりなどを意識づけることができる課題として活用。



ポイントになる部分には、ちょっとしたガイドがつくので、意識をもちやすい。

良かったこと

- 線の方向性やつながりを、視覚・聴覚の刺激を入れながら確認できた。
- 乗り物が大好きな子なので、ナゾルート・モジルートには、集中して繰り返し取り組めた。
- 「道から落ちると車が通らない」というシステムは、Dさんにとってとても納得できるものだった。
- DSも併用し、ほぼひらがなは正確に書けるようになってきた。
- D児の学びやすさに即した、他の教材の開発につながった。



お手本と同じ色でシールをはってから、触って確かめる。



ひらがなしっかりシート

学び方の特性の仮説へつなげる活用(事例③)

Hさんの読み書きの状況

【読み】

- ・カタカナの読みは「カ・リ・ヘ・モ」の4文字のみ（9月での学習開始時点⇔ひらがなは入学前までに全て覚えていた）毎日練習しても、カタカナの単音の読みがなかなか定着しない。
- ・音読は得意で、言葉の塊を意識して読むことができる。

【書き】

- ・斜め線や空間の捉えが苦手で、文字の形が崩れがち。
- ・マスに対して文字が偏ったり過度に小さかったりする。
- ・特殊音節の書字に、間違いが多い。

【Hさんの目標】

カタカナの読みを習得すること

app カタカナあそび1・カタカナ五十音を活用



画像から浮かぶ言葉とカタカナ表記を
マッチングさせながら、習熟を図る。



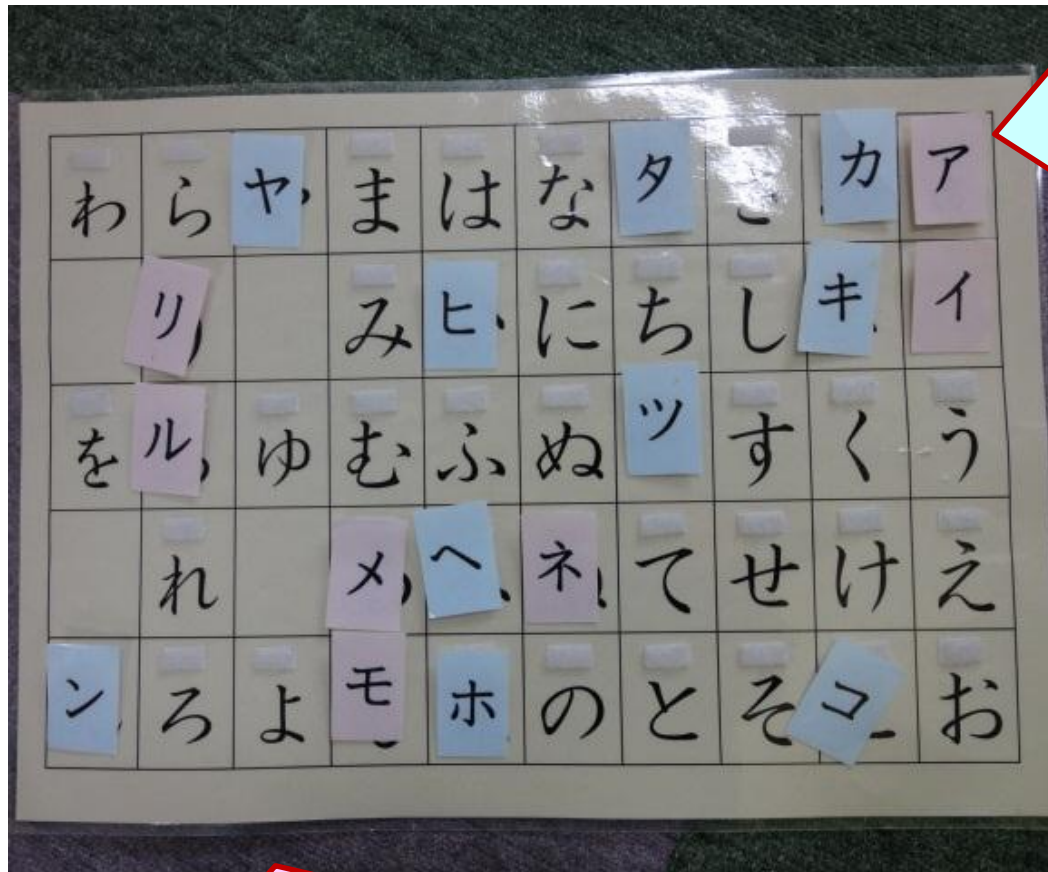
単音を聞いて表記を3択から選択する
ことをくり返しながら、音と表記の一
致をスムーズにさせていく。

2つのappに取り組む

仮説に基づく手立てとして
appを活用する

H児の姿から
学び方への仮説を立てる

10月5日の単音の定着状況



単音のカタカナカードを見せて、「これはなんという字ですか？」と聞いていった。(カードはばらばらに見せているので、一覧の影響はなし)

17個、正解。
「わからん」と間違えも答えられないこと多数

間違い例
「シ」⇒「ツ」
「ソ」⇒「ン」

9月から練習を始めており、練習帳とプリントを使って32文字は学習済み。

カタカナ遊び1

練習ステージ
カタカナを触ると音が出る。

カタカナの学習を始める前から、これならできた！！

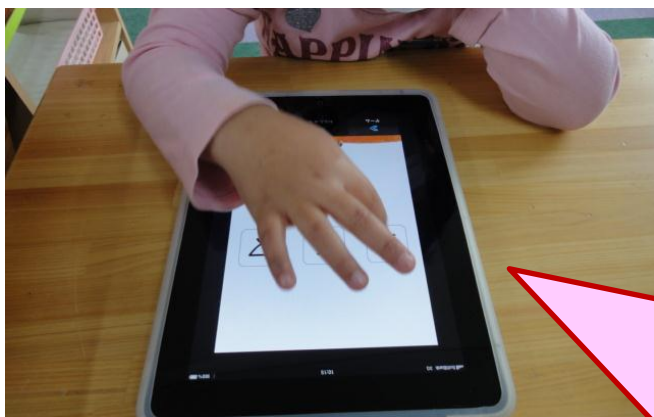


ゲームステージ 画像に合う表記を選ぶ



カタカナ五十音

音を聞いて、3択から表記を選ぶ。
正解でも不正解でも、
選択肢の上に解答が大きく表示される。

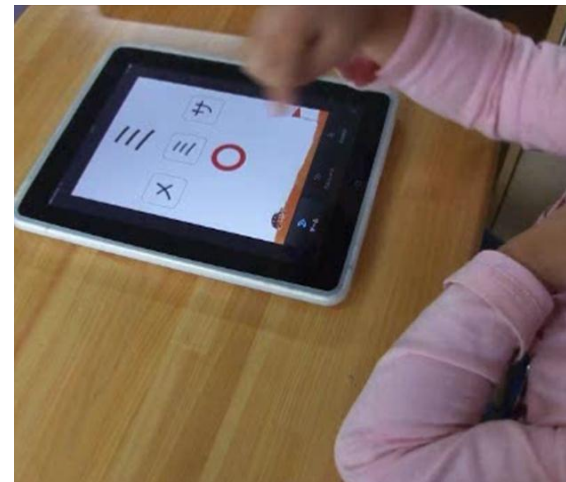


文字を見せただけでは17文字しか一致した音を思い出すことができなかったのに、音を聞いてからの3択だと、間違えつつもかなり正解できた。
間違うとカメは後ろに下がってしまうが、繰り返しながら1人で旗までゴールできた。

2つのa p pの実践から

○H児のカタカナ習得の特徴への仮説

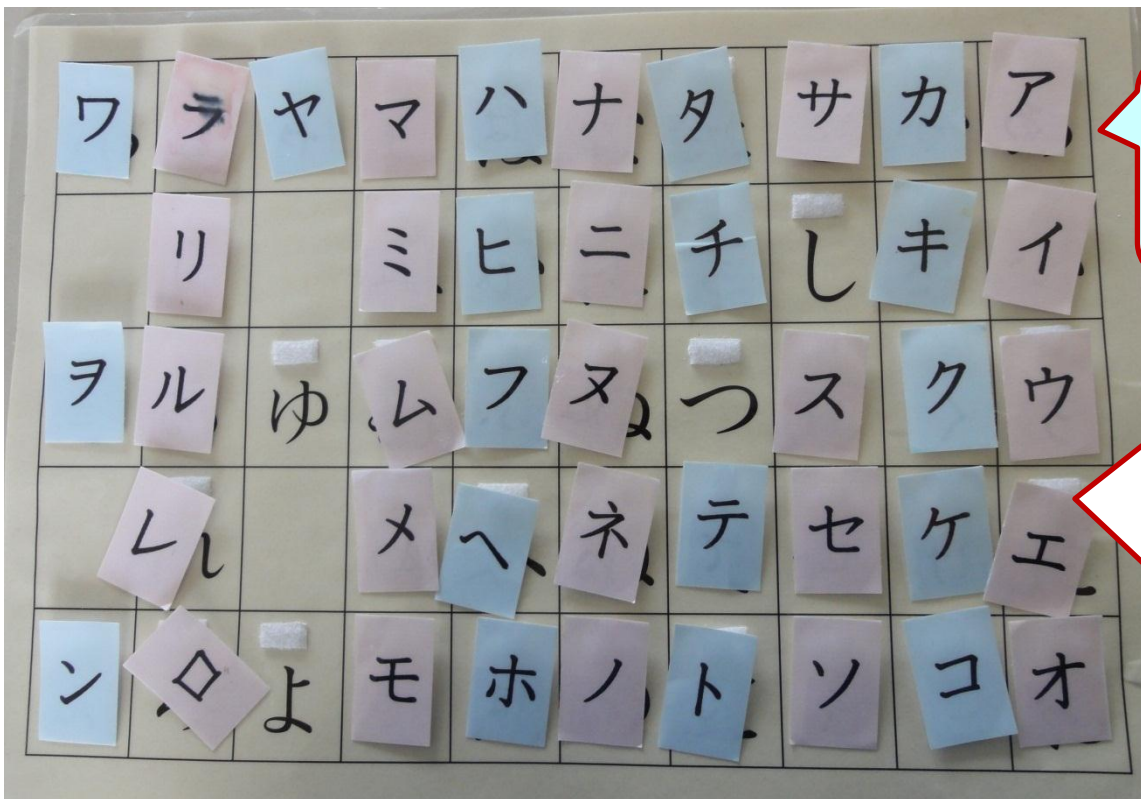
- 単音の読みは難しい
- ⇔ 単語だと読むことができる
- 文字→音は難しい
- ⇔ 音→文字のほうがスムーズ



○H児の学習への手立て

- 音を手掛かりに文字（表記）を探す体験をくり返しながらか、音と表記のマッチングを進める。
- 「ス」ではなく「アイスのス」のように、単語の一部として学習していくと、取り組み易く定着につながるのではないか。

その後～11月17日の単音の定着状況



10月と同じ方法で
チェック。

42個、正解。

「わかりません」は0
間違いは4つ
「シ」⇒「ソ」
「ツ」⇒「ソ」
「ヨ・ユ」⇒「コ」

単音も、ほぼ読める状態。

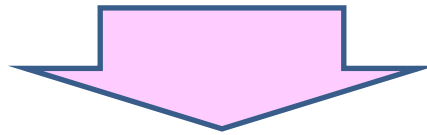
「サラダでげんき」の音読では、熟語
も読めた。

良かったこと

- 当初は「手立て」として使い始めたappだったが、取り組む姿から、それまでは見えなかったH児の学び方の特徴が感じられた。
- 従来の学習の中では見えにくかった学び方の特性が、多感覚を活用できるappを使った課題に取り組むことで、捉えやすくなると感じた。
- appに取り組む姿から得られた仮説を持って指導に当たれたことで、効率的に学習できた。
- 「H児は、音の手掛かりがあると学びやすい」という仮説は、カタカナ以外の学習場面でも活用ができると感じており、算数など、他の教科での支援の広がりにもつながった。

iPad

- 色々な手立てが、手軽に試せる。
- 子どもが興味を持ちやすいので、取り組みが成立しやすい。



- 試せる分だけ、「なぜ取り組みやすいか」「なぜ難しいか」を考える余地が増え、仮説が立てやすい。
- 仮説を検証する手立ても豊富。
- そこで得られた情報を他の支援にも広げやすい。

とても魅力的なツールだが、
i P a dならなんでもできる、
i P a dを使えば大丈夫、ではない
とも感じている。



感想

学習全体の中で、とても有効なツールの1つとして、
i P a dでないとできないこと
i P a dが他の方法より、効果的だったり使いやす
かったりすること

も本当にたくさんあるので、それらをうまく生かしな
がら、子ども達の学びやすさを広げて行きたい。

OHPやパソコン室やビデオの利用が、日々の授業の
中で一般的に活用されているように、「i P a dとい
う選択が、学校現場の中で日常的にできる」ように
なってほしい。

まだまだ使いこなせていない面も多く、今後も検証を
続けたい。